

#### 4. 5 2分野（子どもの健全育成、保健・医療・福祉）の評価ツールセットの更新

昨年度調査では、2分野（子どもの健全育成、保健・医療・福祉）について、ロジックモデル、成果指標（評価指標）、指標の測定方法の案をまとめた評価ツールセットの暫定版（ver.1）を作成した。

今年度調査においては、文献ウェブ調査やNPO等へのヒアリング調査をもとに、作成した評価ツールセットの修正や追記の必要性があるかを検討した。その結果、具体的なイメージをより持てるように、アンケート項目の例を増やす必要性があると判断し、評価項目ごとにアンケート項目の事例を記載することにした。

なお、ロジックモデルは必ずしも正解があるわけではなく、活動の体系の説明しやすさ、納得のしやすさが重要であり、また、このロジックモデルはなるべく幅広い復興・被災者支援に係るNPO等に活用されることが期待されるので、より使いやすくするべく配慮した。

##### （1）子どもの健全育成

###### ①ロジックモデル

「子どもの健全育成」分野は、不登校や被災時の苦しみなどを抱える子どもたちやその母親や女性等に対して支援する取組である。具体的には、被災によって苦しみを抱える子どもたちを含む全ての子どもたちが学んだり、癒したりする場を提供したり、子どもの生活面をサポートしたりすることにより、子どもたちが健全に育つことを目指すものである。また、子どもへの支援とともに、被災した環境の中で、子育てに悩む母親の生活やメンタル面でのサポートをして、子どもが健全に育つことを目指すケースもある。そこで、子どもの健全育成の最終目標を「子どもが健全に、幸せに暮らせる」と設定した。このような設定により、以下のようなロジックが整理できる。

ロジックモデル案

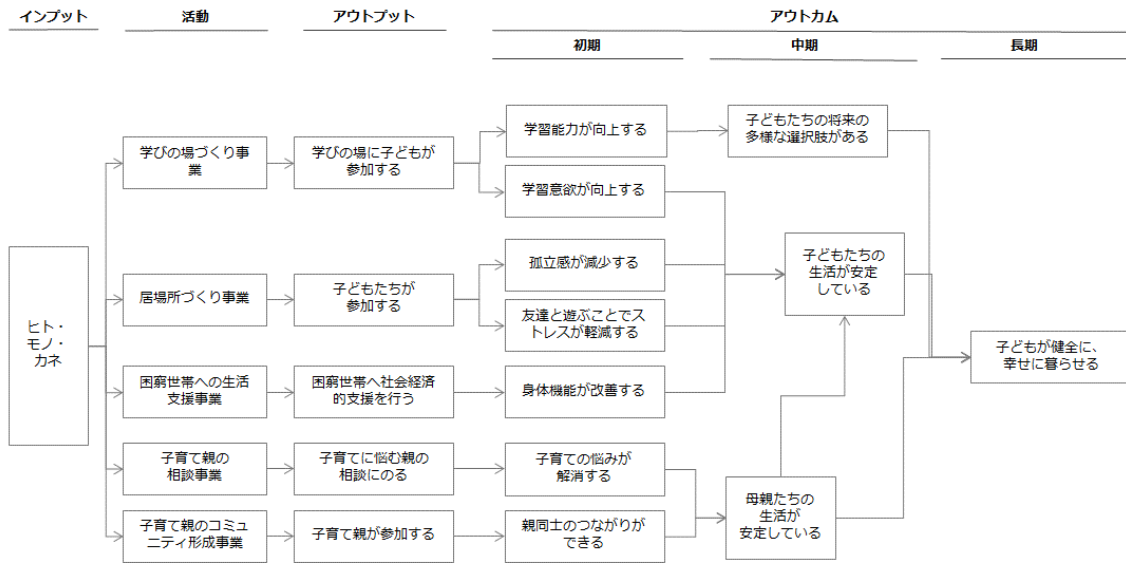


図 30 : 子どもの健全育成分野のロジックモデル

図 30 に示すロジックの内容としては、まず活動のアウトプットの成果として初期アウトカムが現れるが、ここでは「学習能力が向上する」「学習意欲が向上する」「孤立感が減少する」「友達と遊ぶことでストレスが減少する」「身体機能が改善する」と「子育ての悩みが解消する」「親同士のつながりができる」の 7 つを抽出した。これらは、子どもに係る 5 つのアウトカムと子育て中の母親に係る 2 つのアウトカムからなる。

次に、初期アウトカムが生じた結果（多くの場合、それが繰り返して生じた結果）として中期アウトカムが現れるが、ここでは「子どもたちの将来の多様な選択肢がある」「子どもたちの生活が安定している」「母親たちの生活が安定している」を設定した。

さらに、事業の最終目標となる長期アウトカムは、初期・中期アウトカムの延長線上に位置し、「子どもが健全に、幸せに暮らせる」と設定した。

## ②成果指標（評価指標）

上記のロジックモデルに基づき、表 50 のような成果指標（評価指標）の導入が考えられる。

**表 50：子どもの健全育成分野の成果指標（評価指標）**

種類	評価項目	指標
初期	学習能力の向上	「学力が向上した」と回答する割合
	学習意欲の向上	「学習が楽しくなった」と回答する割合
	孤立感の減少	「孤立を感じなくなった」と回答する割合
	ストレスの減少	「ストレスを感じなくなった」と回答する割合
	身体機能の改善	「体調がよくなった」と回答する割合
	子育ての悩みの解消	「子育ての悩みが軽減した」と回答する割合
	親同士のつながり	「親同士のつながりが増えた」と回答する割合
中期	子どもたちの将来に対する多様な選択肢	「子どもたちの進路の多様になった」と回答する割合
	子どもたちの生活の安定	1) 就学援助を受けている小中学生の割合 2) 「経済的に生活が安定している」と回答する割合
	母親たちの生活の安定	1) 生活保護を受けている小中学生の割合 2) 「経済的に生活が安定している」と回答する割合
長期	子どもが健全に、幸せに暮らせる	「幸せである」と回答する割合

### ③測定方法

上記の成果指標（評価指標）に対して表 51 のような測定方法が考えられる。

**表 51：子どもの健全育成分野の測定方法**

種類	評価項目	測定方法
初期	学習能力の向上	子どもへのアンケート調査
	学習意欲の向上	子どもへのアンケート調査
	孤立感の減少	子どもへのアンケート調査
	ストレスの減少	子どもへのアンケート調査
	身体機能の改善	子どもへのアンケート調査
	子育ての悩みの解消	子育て親へのアンケート調査
	親同士のつながり	子育て親へのアンケート調査
中期	子どもたちの将来に対する多様な選択肢	子ども、子育て親へのアンケート調査
	子どもたちの生活の安定	1) 市町村データ 2) 子育て親へのアンケート調査
	母親たちの生活の安定	1) 市町村データ 2) 子育て親へのアンケート調査
長期	子どもが健全に、幸せに暮らせる	子どもへのアンケート調査

（参考）アンケート項目の例

ア) 学習能力の向上に関するアンケート

本取組によって、これまでより学力が向上したと思いますか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

イ) 学習意欲の向上に関するアンケート

本取組によって、学習することが楽しくなりましたか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

ウ) 孤立感の減少に関するアンケート<sup>20</sup>

①孤立感や不安感が軽減された。

1. 改善した                      2. どちらかといえば改善した                      3. 変わらなかった  
4. どちらかといえば悪化した                      5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

エ) ストレスの減少に関するアンケート

本取組によって、ストレスはどの程度軽減されましたか？

1. 大変軽減された    2. ある程度軽減された    3. どちらとも言えない  
4. あまり軽減されていない    5. 全く軽減されていない

オ) 身体機能の改善に関するアンケート<sup>21</sup>

②心身の健康改善につながった。

1. 改善した                      2. どちらかといえば改善した                      3. 変わらなかった  
4. どちらかといえば悪化した                      5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

カ) 子育ての悩みの解消に関するアンケート

本取組によって、子育ての悩みはどの程度軽減されましたか？

1. 大変軽減された    2. ある程度軽減された    3. どちらとも言えない  
4. あまり軽減されていない    5. 全く軽減されていない

---

<sup>20</sup> 平成 28 年度実施の絆力事業の各取組の受益者等へのアンケート（取組に対する受益者の満足度等アンケート）

<sup>21</sup> 平成 28 年度実施の絆力事業の各取組の受益者等へのアンケート（取組に対する受益者の満足度等アンケート）

キ) 親同士のつながりに関するアンケート<sup>22</sup>

	増えて いない	少し 増えた	ある程度 増えた	とても 増えた
プログラム・イベントへの参加/施設の利用によって 地域内の友人・知人の数は増えましたか？	1	2	3	4

ク) 子どもたちの将来に対する多様な選択肢に関するアンケート

以前と比べて、子どもたちの将来に対する選択肢が増えたと思いますか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

ケ) 子どもたちの生活の安定に関するアンケート

以前と比べて、子どもたちの生活は安定していると思いますか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

コ) 母親たちの生活の安定に関するアンケート

以前と比べて、皆さん（母親たち）の生活は安定していると思いますか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

サ) 子どもが健全に、幸せに暮らせることに関するアンケート

以前と比べて、子どもが健全に、幸せに暮らせていると思いますか？

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

---

<sup>22</sup> G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会「社会的インパクト評価ツールセット」

## (2) 保健・医療・福祉

### ①ロジックモデル

「保健・医療・福祉」分野は、国内のNPO法人において最も多い活動分野であり、健康・医療に関することや「社会的弱者」を支援・サポートする事業が行われている。例えば、障がい者や児童、要介護者などに対する支援や情報提供の活動のほか、近年は生活困窮者や低所得者、犯罪被害者などの社会的弱者に対する支援活動を行うNPO法人も多くなっている。

「保健・医療・福祉」分野は、高い専門性を要するとともに活動の幅が非常に広く、また、活動目的も多岐にわたっているのが特徴と言える。本調査では福祉分野の一部を扱ったが、障がい者自立支援施設や障がい福祉サービス、障がい児・者の生活サポート、障がい等に対する理解を深めるための普及啓発活動など活動の幅が広く、市民や大学、企業、NPO、行政等と協働し、障がい者支援等の活動を通じて、社会の発展に関する事業を行い、多様性のある子どもやそのご家族などが平等に安心して暮らせる地域をつくることを目指している。

そこで、保健・医療・福祉の最終目標を「地域における多様な療育・介護環境の構築」「生活の自立」と設定した。このような設定により、以下のようなロジックが整理できる。

#### ロジックモデル案

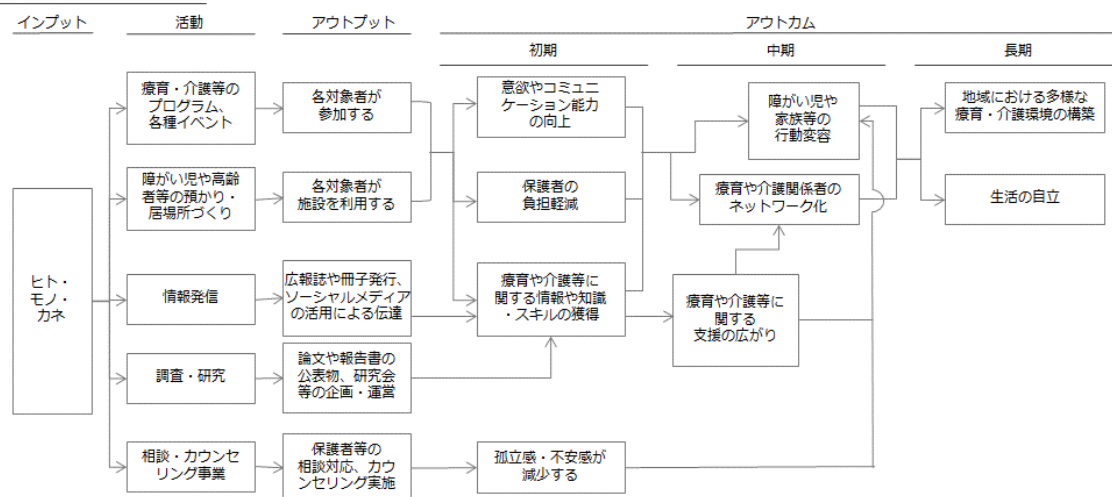


図 31：保健・医療・福祉分野のロジックモデル

注) ここで示す保護者は、障がい児の親や、高齢者の子孫・パートナーなどを想定している。ケースに応じて使い分けることを前提とする。

図 31 に示すロジックの内容としては、まず活動のアウトプットの成果として初期アウトカムが現れるが、ここでは「意欲やコミュニケーション能力の向上」「保護者の負担軽減」

「療育や介護等に関する情報や知識・スキルの獲得」「孤立感・不安感が減少する」の4つを抽出した。

次に、初期アウトカムが生じた結果（多くの場合、それが繰り返して生じた結果）として中期アウトカムが現れるが、ここでは「障がい児や家族等の行動変容」「（療育や介護等に関する支援の広がりによる）療育や介護関係者のネットワーク化」を設定した。

さらに、事業の最終目標となる長期アウトカムは、初期・中期アウトカムの延長線上に位置し、「地域における多様な療育・介護環境の構築」「生活の自立」と設定した。

## ②成果指標（評価指標）

上記のロジックモデルに基づき、表 52 のような成果指標（評価指標）の導入が考えられる。

表 52：保健・医療・福祉分野の成果指標（評価指標）

種類	評価項目	指標
初期	意欲やコミュニケーション能力の向上	「意欲が向上した」「コミュニケーション能力が向上した」と回答する割合
	保護者の負担軽減	「負担が軽減した」と回答する割合
	関連する知識・スキルの習得	「関連する知識・スキルが習得できた」と回答する割合
	孤立感・不安感の減少	「孤立や不安を感じなくなった」と回答する割合
中期	障がい児等の行動変容	「態度や行動が変容した」と回答する割合
	療育や介護等の関係者のつながり	「関係者間のつながりが増えた」と回答する割合
長期	地域における多様な療育・介護環境の構築	「多様な療育・介護環境が構築されている」と回答する割合
	生活の自立	日常生活自立度尺度、「生活が自立できている」と回答する割合



### ③測定方法

上記の成果指標（評価指標）に対して表 53 のような測定方法が考えられる。

**表 53：保健・医療・福祉分野の測定方法**

種類	評価項目	測定方法
初期	意欲やコミュニケーション能力の向上	アンケート調査（本人、保護者）※適応行動尺度の活用など
	保護者の負担軽減	アンケート調査（保護者）
	関連する知識・スキルの習得	アンケート調査（本人、保護者）、関連テストのスコア
	孤立感・不安感の減少	アンケート調査（保護者）
中期	障がい児や高齢者等の行動変容	アンケート調査（保護者）、変容記録データの収集・分析
	療育や介護等の関係者のつながり	アンケート調査（保護者）
長期	地域における多様な療育・介護環境の構築	アンケート調査（保護者、自治体）
	生活の自立	日常生活自立度尺度を活用した測定、アンケート調査（本人、保護者）・二次情報調査

（参考）アンケート項目の例

ア) 意欲やコミュニケーション能力の向上に関するアンケート（言語活動の状況）<sup>23</sup>

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
1. 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<sup>23</sup> G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会「社会的インパクト評価ツールセット」

イ) 保護者の負担軽減に関するアンケート<sup>24</sup>

③家族の負担軽減につながった。

1. 改善した                      2. どちらかといえば改善した                      3. 変わらなかった  
4. どちらかといえば悪化した      5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

ウ) 関連する知識・スキルの習得に関するアンケート

本取組によって、関連する知識・スキルはどれくらい習得できましたか？

1. 大変習得できた    2. ある程度習得できた    3. どちらとも言えない  
4. あまり習得できなかった    5. 全く習得できなかった

エ) 孤立感の減少に関するアンケート<sup>25</sup>

①孤立感や不安感が軽減された。

1. 改善した                      2. どちらかといえば改善した                      3. 変わらなかった  
4. どちらかといえば悪化した      5. 悪化した

※「4.」または「5.」を回答された方は、その理由をご記入ください。

オ) 障がい児や高齢者等の行動変容に関するアンケート

地域の障がい児や高齢者等の行動や言動に良好な変化が見られますか？

1. 大変見られる    2. ある程度見られる    3. どちらとも言えない    4. あまり見られない  
5. 全く見られない

---

<sup>24</sup> 平成 28 年度実施の絆力事業の各取組の受益者等へのアンケート（取組に対する受益者の満足度等アンケート）

<sup>25</sup> 平成 28 年度実施の絆力事業の各取組の受益者等へのアンケート（取組に対する受益者の満足度等アンケート）

カ) 療育や介護等の関係者のつながりに関するアンケート<sup>26</sup>

	増えて いない	少し 増えた	ある程度 増えた	とても 増えた
プログラム・イベントへの参加/施設の利用によって 地域内の友人・知人の数は増えましたか?	1	2	3	4

キ) 地域における多様な療育・介護環境の構築に関するアンケート

地域における多様な療育・介護環境が十分に構築されたと思いますか?

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

ク) 生活の自立に関するアンケート (保護者向け)

支援対象者の生活自立度は十分なレベルに達したと思いますか?

1. 大変そう思う
2. ある程度そう思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 全く思わない

---

<sup>26</sup> G8 社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会「社会的インパクト評価ツールセット」